

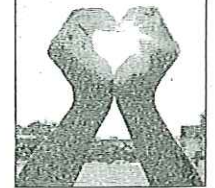
# 日本経済新聞

3月21日  
日曜日

発行所 日本経済新聞社  
東京本社 ③(03)3270-0251  
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
大阪本社 ③(06)6943-7111  
名古屋支社 ③(052)243-3311  
西部支社 ③(092)473-3300  
札幌支社 ③(011)281-3211  
NIKKEI NET アドレス  
http://www.nikkei.co.jp/  
購読のお申し込み  
①0120-21-4946  
http://www.nikkei4946.com

人がつくる。  
人でつくる。

戸田建設  
www.toda.co.jp



## きょうの紙面

個人、高金利通貨投資を再開  
米金融制度改革、議論大詰め  
ベスト電器、再建巡り内紛  
政権公約足かせ 迷走の半年

6特 7企 8国 9経

愛媛県西条市で3月、青汁の原料となるケールが収穫期を迎えた。農産物を加工販売する遠赤青汁(同県東温市)が栽培する畑だ。

特産の「愛宕柿」やミカン栽培が盛んなところだが、背丈ほどの雑草に覆われ、果樹にツタが絡まった耕作放棄地も目立つ。同社はそんな土地を借りて再生し、ケールやニンニクを有機で作る。有機栽培に最適

「放棄地は一番きれいな土地だ」。社長の高岡照海(67)は言う。長年使われていなかったことが幸いし、農薬や除草剤、化学肥料が残留していない。有機栽培には最適というわけだ。

## ニッポンの農力

第5部 宝は眠っている

### 土地の発想変える

やす予定だ。日本の耕作放棄地は埼玉県の面積に匹敵する約38万畝(2005年)に上る。10年間で6割も拡大した。農業衰退の象徴でもある。これを再生すれば、とするとざっと5000億円の潜在力が放棄地に眠っている計算だ。07年設立のベンチャー企業、マイファーム社長の上野(27)は、電車の窓から放棄地を見つけた。抱える利用者は約100人、自然と笑みがこぼれる。抱える利用者は約100人、自然と笑みがこぼれる。

## 放棄地 価値は500億円

ケールは自社工場で青汁粉末やタブレットに加工し、百貨店や通信販売ルートで売る。昨年からはシンガポールへの輸出も始めた。同社の手でよみがえった元放棄地は約12畝。今年には2畝を増

。08年時点の国内の農地は463万畝。放棄地はさらに増えているとみられるが、38万畝として農園に再生し、野菜作りも農地の約8%を占める。農業産出額(畜産物を除く)は年5兆8千億円なので、生産性を同じ

00組。使用料を農家と折半する仕組みで、12月期の売上高は2億2000万円。決算期変更で6カ月決算の09年12月、岩手県軽米町の町長、山本賢一(55)は声を弾ませる。町内約9000畝の放棄地のうち、約1000畝を約1000畝に広げ、に都会の人たちに頼るの産するだけではない。さまざまな有形、無形の価値を生み出している。そこをニッポンの農業の新たな可能性を見いだし、潜在力を掘り起こす動きを追う。(敬称略) 関連記事3面に



遠赤青汁は放棄地を借りてケールやニンニクを栽培する(愛媛県西条市)

を占める放棄地は雑草や竹が生い茂ったまま。しかも年々増えている。そこに昨年、転機が訪れた。ニチレイグループの隣りの洋野町につくった養鶏場でコメを混ぜたエサを与えることになり、サを与えることになり、有し続けても、中山間地などの使いにくい土地が多く、高く買ってくれる人も現れない。そうやって広がってきた。「株主」を集める 放棄地の購入資金を主 農業の機能は食料を生